

## 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ 概要書

ワークショップ名	これからのジェネralistにとって必要なデータとは？有益で効果的な研究の方向性 —何を、誰が、どうやるか？—
開催の目的	<p>「日常診療の中からテーマを見つけることが良いといわれているが、自分自身ではなかなか見つからない・・・。」</p> <p>「はたしてこのテーマが研究として、他の人の役に立つのだろうか？」</p> <p>「過去の文献を調べ、デザインを立て、研究を実施、データ収集し、分析し、執筆・・・。研究を始めようと思うが、それまでの工程を思うと正直きつい。研究に協力したいとは思っているのだが・・・。」</p> <p>今後、我々ジェネralistはどの方向に向かって研究をしていけばよいのでしょうか？ 臨床、教育、研究、管理業務と、様々な役割を担う日常。そのうち、特に臨床を中心としてやってきたジェネralistは、なかなか自分独自で適切なリサーチクエスチョンを立て、デザインを構築することが難しいという声を聞きます。</p> <p>今までの歴史、他国、日本での他の医学分野をみると、調査・研究を通して学術的にジェネralistの仕事を確認していくことは非常に重要であると考えますが、日常的な様々な制約の中で「わかってはいるけれど、なかなか実践できない」という事が多いのではないのでしょうか？</p> <p>このセッションでは、そのような状況を少しでも改善するため、</p> <p><b>1) 研究者の目線から見た、今後ジェネralistが行う研究の具体的な方向性</b> <b>2) 多施設メンバーによるチームで、実際に研究を行っている事例の例示</b></p> <p>などを参考にしながら、「何を、誰が、どうやるか」について参加者の方々とディスカッションさせていただければと考えております。</p> <p>日本のジェネralistによる研究を強化するためには、今まで以上に多くの研究者の育成ならびに研究協力者をスピーディーに増加させていくことが必要と考えており、その一翼を担えればと考えています。</p>
対象	<p>■診療所医師      ■病院勤務医      ■初期研修医      ■後期研修医</p> <p>■歯科医師      ■薬剤師      ■看護師      ■学生</p> <p>■プライマリ・ケアに関する研究者      ■その他（テーマに興味のある、全ての方にご参加いただけます。）</p>
講師名	<p>企画責任者 吉本 尚（三重大学大学院医学系研究科 臨床医療学講座家庭医療学分野）</p> <p>講師 福原 俊一（京都大学大学院医学研究科医療疫学分野）</p> <p>世話人 大野 每子（唐津市民病院きたはた）</p> <p>講師 渡邊 隆将（北足立生協診療所/医療福祉生協連家庭医療開発センター）</p> <p>講師 田原 正夫（岡山家庭医療センター湯郷ファミリークリニック）</p>
定員	定員： 70名 ※机の配置は全て島組（6人/1島）

企画責任者 吉本尚（三重大学大学院医学系研究科 家庭医療学分野）  
世話人 大野每子（唐津市民病院きたはた）

1) 開会挨拶・アイスブレイク

2) 講演1 「東京でのPBRNの構築と現状、実践（仮）」

医療福祉生協連 家庭医療学開発センター Practice Based Research Network 運営委員長  
東京ほくと医療生協 北足立生協診療所/東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科  
渡邊 隆将先生

3) 講演2 「遠隔での多施設メンバーによる調査は、どのように行われたのか（仮）」

日本プライマリ・ケア連合学会 若手医師部会 後期研修医実態調査プロジェクトチーム  
岡山家庭医療センター 湯郷ファミリークリニック  
田原 正夫先生

概要

4) 参加者ディスカッション・発表

○何を：どんなテーマにより取り組むべきか？

○誰が、どうやるか：連携して研究するモデルとは？

5) 講演

「ジェネラリストにこそやってほしい研究と、研究の実施可能性を高める方略」  
京都大学大学院医学研究科医療疫学分野 教授  
福原 俊一先生

6) まとめ、アンケート記載

講演の間に、参加者間のディスカッションを行い、参加型のセッションといたします。  
多種多様なバックグラウンドを持つ、多くの方のご参加をお待ちしております。